

令和3年度

吉野川市立川島学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 未来を創る力の育成
- ①バランスのとれた「確かな学力」を育成する
 - ②生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実を図る
 - ③自分の考えをまとめ、主体的に表現できる力を育成する

学力向上検討委員会構成

| 学力向上推進員 | 委員 |
|---------|--|
| 明石浩二 | 結城栄子(校長) 中川浩幸(教頭) 入交理子(人権教育主事) 羽田泰子(1年主任) 山野井貴子(2年主任) 住吉洋子(3年主任) 岡崎 勝(生徒指導主事) 岡久茉莉(特別支援コーディネーター) |

校長

結城 栄子

【各校の取組状況の把握について】

管理職の授業参観及び、教職員の相互の授業参観、報告等において取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|---------|----------|-------------|
| ○朝読書・朝学習の時間などはまじめに取り組んでいる。 ○意欲的に授業に参加することができる。 ○提出物は期限を守って出そうと努力している。 ●決められた課題は取り組むが主体的に学習しようとする姿勢に乏しい。 ●家庭学習時間が不十分。 ●わからないところをそのままにする傾向がある。 | ・家庭で各教科の自主学習を行う習慣を身につけている。 ・苦手な教科も家庭学習で目標や計画性をもって取り組める。 ・基礎的基本的な知識技能を確実に身につけてそれを活用していきける力、応用できる力につなげている。 | ・授業において、「学習のめあて」「単元の流れ」を先に説明するなど学習の一覧をわかりやすく提示する。 ・各教科で小テストを実施し学習の定着を図る。 ・家庭での学習内容を生徒自身が決める機会を設ける。教員は取組みを把握する。 ・最後のまとめで何かができるように、わかるようになったかを表現させる場面をつくる。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|---------|----------|-------------|
| ○自分の思いや考えを言葉で表現しようとする。 ○発表や学級活動では話し合いに参加し、相手の意見をふまえながら自分の意見を言える。 ●反省や解き直しなど知識や思考の整理がよい加減な傾向がある。 ●具体的な根拠を示したり、順序立てて説明したりするのが苦手である。論理的思考が苦手である。 ●語彙が乏しい。 | ・声の大きさや考えの根拠を具体的に説明するなど工夫し、場に応じわかりやすく相手に伝えることができる。 ・様々な事象に対して、深く考え、多角的に見つめる確に判断することができる。 ・自他の意見を尊重し、よりよい意見になるように前向きに取り組むことができる。 | ・生徒集会で各専門委員会(年2回程度)取組みを発表する。 ・各教科において、ICTやタブレットPC、ホワイトボードなどを活用して生徒の自主性を高める授業について研究する。 ・一分間スピーチなど具体的な言葉で伝える機会を増やす。 ・学力の定着と思考力や表現力の向上に向け、共に教え合う学習場面をつくる。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|---------|----------|-------------|
| ○各教科の授業を集中して受け、自らの資質向上に役立てようとしている。 ○チャイム前着席や学習の準備はできている。 ●自主学習の計画がたてられず、授業での知識技能が十分に定着しない。 ●毎日の復習に取り組んでいる生徒は少ない。 ●発表の声が小さい。場の状態に応じた発表態度になっていない。 | ・学習計画を自主的に立て、家庭学習を継続的に行う。 ・分からない問題や苦手分野に対して粘り強く取り組み理解しようとする。 ・将来の自分の姿を描き、実現させるために、今の生活を結びつけて考えることができる。自分の立てた行動目標を継続して実行することができる。 | ・定期・実力テストを利用しながら苦手分野を分析し、その対策に取り組む。 ・学ぶ内容だけでなく学ぶ手段についても共有を進める。生徒対象の学校評価アンケート「よくわかる10ポイントUP」させる。 ・生活チェック表に家庭での過ごし方を記録させ、振り返りを行うことで、次の課題や取り組むことを自ら考えさせる。 ・ポジティブな行動支援、生活チェック表を活用して達成を視覚化する。 | | | |

令和3年度 学力向上ロードマップ

